公表用（要約版）

第２回　青森市総合計画審議会　総括分科会　議事要旨

【日　時】平成 30 年 9 月 20 日（木）13：10～14：10
【場　所】青森市役所本庁舎　２階　庁議室
【出席者　香取　薫 総括分科会長、内山 清 委員、内海　隆 委員、福岡　裕美子 委員
　　計４名
【欠席者】井上　隆 委員
【オブザーバー・傍聴者等】なし
【事務局】前多副市長、小川企画部長、横内企画部理事、舘山企画調整課長ほか
　　計 12 名
【配付資料】
・次第
・「青森市総合計画　基本構想」答申案（素案）［概要版］
・「青森市総合計画　基本構想」答申案（素案）
・新総合計画と旧総合計画の基本構想構成比較表（案）
・青森市総合計画基本構想答申案（素案）【概要版の素】
・「青森市総合計画　基本構想」における第１章から第４章の相関表
・分科会における主な委員意見と基本構想「施策の大綱」への反映［抜粋］
・基本構想答申前後の主なスケジュール
【会議の概要】
〇配付資料の見方を確認したのち、「青森市総合計画基本構想答申案（素案）」について、議論がなされたのち、一部修正を加えた上で、事務局案の了解が得られた。

「概要版」資料について

（委員）
・カラーの概要について、矢印が内側を向いているので、それぞれの施策をやった結果が真ん中に向かって、人口減少につながっているように見えたので、矢印を逆にして、こういう課題に対応してこういう施策に挑戦していきます、という感じがいいのではないか。今の作りだと、結局いろいろやっても人口減少になってしまう、というイメージが沸かない方がいいのかなと感じました。
・この作図の意味は、人口減少に対してどういう解決でやっつけていく、矢を打ち込んでいくということかなと思います。人口減少という課題を破壊するために矢を打ち込んでいくという風に私は見えました。課題を撃破していくために、こういう対応をしているのだと捉えました。説明の際に、「課題を撃破する」「チャレンジする」という説明をされたらいかがでしょうか。

（事務局）
・人口減少に対してどういう解決でやっつけていくのか、矢を打ち込んでいくといった意図で作成しております。
（委員）
・誤解をされる市民の方もいらっしゃるかも知れないので、その辺は「チャレンジ」ということに伴い、課題を撃破していく、という風な説明を積極的にしていただくようお願いします。

第１章「基本構想策定の趣旨・背景」について

（委員）
・第１章「1　基本構想策定の目的」の中で、「真の緊急課題」という表現がありますが、あえて「真の緊急課題」とした意味が分からないです。「真」でない緊急課題というのがあるのかなと思いました。「喫緊の」とか、とても重大で解決しなければならない、という意味合いだろうとは思いますが。
（事務局）
・喫緊の、といいますか、課題の中でも特に最上位の、という意味で付けております。
（委員）
・喫緊というと、それはすぐさま解決しなければならないと、読み手には受け取られます。基本構想は 10 年間の期間を見ているということなので、その辺を工夫されたのかなと思います。どうでしょうか、喫緊の、といいますか、言いたいことは緊急と同じ意味ですよね。
（事務局）
・おっしゃるとおり、10 年間の基本構想で、先ほどの外からやっつけるイメージなのですが、10 年掛けて人口減少に立ち向かっていきたいというのがひとつと、10 年でも足りないかもしれないという部分も含めています。
（委員）
・それであえて喫緊という言葉を使っていないわけですね。でも、緊急課題というのは緊急という意味ですからね。
・10 年以上という意味も含めるなら、「構造的な」とか。
・本市の構造的な緊急課題、ということですかね。でも、緊急という言葉を使っていますからね。本当であれば、重要課題、と言いたいところですけれど、それだとインパクトが弱いのかも知れませんね。一応質問としては、意見でもありますけれども、そういうことだと受け止めていただければ。市民の方もこだわる方はこだわるかも知れませんね。
・「(1) 魅力ある仕事や労働力」となっているのですが、先日、若い方のインタビューを見ていたら「県に魅力ある自分が行きたい大学がないので県外に行きます」ということを言っていた人がいて、ここは仕事が不足しているという部分ですが、文章の中に「進学や就職を契機とした」という表現があるので、（インタビューであったような）内容が文章の中に入

ってもいいのかなと感じました。ただ、標題が仕事や労働力なので、あえて入れる必要もないのかな、と考えていました。
（事務局）
・市の計画なので、市が「魅力ある大学を増やします」ということを、なかなか言えない。
（委員）
・高校生が行きたい大学がない、という意味は、本当は違う意味なのではないかと、私たちの分析では出ています。例えば、理工系の大学がないといっても、工学部は県内にないですよね。八戸工業大学がありますけれど、私立で学費が高いとか、県外に出るなら、本当はもっとお金掛かるのですけれど。そういうインタビューというのは、最近は突っ込みが不足していて、じゃあどういうところに行きたいのかと聞いてくれると助かるのですが。
・課題と次の大綱の中間くらいの話ですが、人口についても、減少しているだけじゃなく取り返すというか、ＵターンとかＪターンとかＩターンのようなことも必ずしも上手くいっていないという話も課題になるのかどうか。そこをもっと力入れていきましょうというと施策的につながるのかなと思います。出て行くのが止まればいいですけれど、出て行くかどうかは個人の自由もありますし。地域に魅力があれば、一度出て行っても戻ってくる、地域経済をパワフルにするためにも、色々なところにネットワークがあればいいでしょうし。そういう方向性はありかなと思います。でも、それをこの課題に書き込んでいいのかどうか。
・Ｕターンはまだしも、Ｉターンは難しいですよね。どこかから引っ張ってくると、他が減るわけで。ふるさと納税と同じで、どこかに寄附すればどこかが減るということなので、そこまで書き込んでいいのかどうか。ちょっと難しいかなと思いますが、御意見としては、ごもっともだと思います。
・「(3) 多様化する地域課題・地域活力の維持」の中で、行政が中心となった取組では限界が生じるというのは、恐らくそうだろうと感じていて、経済・経営の世界だと、ＣＳＲ（企業の社会的責任）といって、企業も社会的な問題を自分たちの能力の範囲で担っていくという動きが世界的に広がりつつあることから、民間企業とかを巻き込むみたいな感じだといいと思います。これも、大綱で書くのか、課題で書くのかですが、書き方として、そういう企業との連携も読み取れる内容だといいかなと思いました。
・ここは課題のパートなので、そういう課題を解決するために企業だとかＮＰＯとかと連携していく、というのは解決策の方に書いていく。
（事務局）
・方向性としては、多様な主体と連携していくということで、その中にさまざまな企業やＮＰＯを含めて連携していくという意図です。
（委員）
・ここは課題だから、行政だけだと無理だという課題を出していますから、それはいいのかなという気がします
・将来都市像を見ていて、チャレンジする街だとなっていて、そういう意味では何か大胆な、

例えば「人口倍増計画」だとか、被災者を受け入れるような都市です、とか、施策のどこかに大胆な発想があると、将来都市像が活きてくるかなと思いました。
・「(5) 多発する自然災害・空家等の増加」の下の段落で、「空家数は国と同様増加しているものの、空家率は国を上回っている」という表現について、「増加しているものの上回っている」というのが分からない。
・数は増加している、国と同じ。だけど率は、上回っている。数は同様だけど、率から見るともっとすごいということを書きたいのかと思いますが、「ものの」となっているからおかしいので工夫してほしい。
（事務局）
・工夫します。

第２章「まちづくりの目標」について

（委員）
・パラリンピックの次に、国体開催予定とありますが、「青森県」と入れた方がいいのではないか。「青森県で開催予定」とかですね。
（事務局）
・了解しました。
（委員）
・「(4) 生涯現役の推進」のところで、例えばがん検診とか疾病の早期発見を強調されていますが、その他にも、今後地域包括ケアを考えていくに当たっては、介護予防をひとつキーワードに入れた方が、生涯現役につながるのではないかと思います。
（事務局）
・了解しました。
（委員）
・印象論になりますが、生涯現役で、今まで 90 年人生だったものが、最近は 100 年という言葉がたくさん出てきているので、その辺書いてもいいのかどうか、について少し気になりました。
・将来都市像の「市民一人ひとりが挑戦する街」について、目指すのはいいけれども、皆独力でやるのか、という感じを受けた。これも施策の大綱の話になるかも知れないが、例えば「これらにより、若者をはじめとした多くの市民がこの街で暮らしていける環境を確保します」というのが、今後含みを持たせて、色々なチャレンジを行政も市民団体もサポートします、というニュアンスがかもし出せればいいなと。やはり、自助努力が一番大事であるが、言い放ってそれでおしまいだと寂しいなと思いました。
・夢や希望を持ってチャレンジできるような、そういう可能性を市は応援します、とすると、何となく頑張ろうという気になる。
・突き放している感じを受けるということですね。努力して欲しい、という感じで。努力す

るとともに、公的にそれを応援しますよ、と。でも、なかなか難しく、私も事情はよく分かりますが、行政が支援するとなると、金銭的な支援というパターンがすごく多いけれど、それは現実には無理ですよね。国も県も無理だと思います。形を取ることはできますけど、ここは政策だからそこまで書かなくても。挑戦するというのは、「あらゆる分野において市民一人ひとりが」ということですから、若者であろうと、老人であろうと、市民みんなが挑戦してくださいということなので、私は異論ないです。

・「若者」の部分は、若者が流出していって、高齢化率が上がっているから、それを解決する方向性として「若者をはじめとした多くの市民が」とここに書き込むのは、政策としては当たり前かなと読み込みをしました。最初に一人ひとりと言っていますから、ただ読み方によっては「挑戦しなさいね、あとは知らないから」と読めないこともないということは、御意見として確かにそうかなと思います。

・色々な機会を作るとか、交流の場を作るとか、市長賞をあげるとか、金銭面以外の施策も色々あると思います。全ての人が夢の世界でプロになれなくてもいい。働きながら、趣味の世界で自分の好きなことが実現できるという。そういうのもありだと思います。大学生で、プロになる気はあまりないが、地元で働きながら週末バンド活動をやるという学生もいて、バンド以外にもそういうのはあると思う。そういうのを金銭面以外で支えていくというのがあれば、玉の打ち方が増えていくという感じがします。

（事務局）

・今のお話は、チャレンジへの支援の話で具体的な取組に入ってきますので、その辺は基本計画の中で書き込んでいく際に具体的な支援の話も触れられるかと思います。

（委員）

・アクションプラン（基本計画）の方で出てくるということですね。これは構想で方向性ですから、アクションプランの中では、予算を伴うものについても細かく書いていくということになろうかと思います。実際には、まだ知られていないですが、結構チャレンジに対して色んなことが図られているのです。一般市民の方がどこまで知っているかは別の問題として、その辺も基本計画に期待したいなと思います。

第３章「施策の大綱」、第４章「推進体制」について

（委員）

・分科会で議論してきた中で、事業承継がここ 10 年くらいで非常に大変なタイミングに来ているという話があったので、「事業承継」という言葉を入れてもらえるといいのですが。

（事務局）

・分科会の中で、そういった話が出ていることは承知をしておりまして、当初は「事業承継」という言葉を入れておりましたが、そこの部分を、市の方向性として、事業承継のみならず、それも含めた新たな事業展開ということで「第二創業」という表現で市の内部で整理させていただきました。

（委員）

・「事業承継」については、もっと細かい話も出てくる可能性があって、それより「第二創業」であれば、少し広く捉えられるのではないでしょうか。